

# 生成AIツールの活用に向けた第一歩

信金中金月報掲載論文編集委員

村上 恵子

(県立広島大学 地域創生学部教授)

先日、筆者が所属する金融系の学会で生成 AI に関する講演が行われると聞き、参加してきた。大学で教えていると学生達が就職活動や授業レポート作成に生成 AI を使用しているという話を耳にすることがあるし、IT に強い先生から生成 AI がいかに便利かについて話を伺うこともある。しかし、自分自身がこれまで生成 AI を活用してきたかというところ、この分野に苦手意識を持つこともあり、生成 AI の懸念点を言い訳に最初の一步を踏み出せずにいたというのが実状である。だが今回、金融系の学会で生成 AI に関する講演が行われたのを機に、教育者としてだけでなく研究者としても生成 AI の利活用から逃げている場合ではなくなったと覚悟を決め、講演を聞きに行ったのである。

ご存じのとおり、生成 AI は「テキスト、画像、音声などを自律的に生成できる AI 技術の総称」(総務省(2024)『令和6年版情報通信白書』、p.37)である。2022年11月に米国の OpenAI から公開された対話型 AI の「ChatGPT」を思い浮かべる人も多いだろう(かく言う筆者もその一人である)。同白書では、各種オンラインサービスのユーザー数について、Facebook が1億ユーザーを達成するまでにかかった期間は54カ月、X(旧 Twitter)は49カ月、Instagram が30カ月であったのに対して、ChatGPT はわずか2か月であったというデータが紹介され、ChatGPT のユーザー数拡大スピードがいかに驚異的であったかが示されている。また、生成 AI の市場規模は2027年に1,200億ドル規模になり、それは2023年の世界のノート PC 市場とほぼ同規模であるというボストンコンサルティンググループの試算結果も紹介されている。

野村総合研究所も2023年の4月と6月、2024年9月の3回に渡り、関東に住む15～69歳の男女、約3,000人を対象に ChatGPT に関する WEB アンケート調査を実施している。WEB 調査ではインターネットが使えない人が調査対象から排除されるため回答の偏りに注意する必要があるが、ChatGPT を実際に利用したことがある者の割合は、2023年4月12.1%、2023年6月15.4%、2024年9月20.4%と、年々増加している。また、40・50代の中年男性や20・30代の若年女性の利用が伸びていることも確認できる。我が国でも、徐々にではあるが ChatGPT の利用者の数と幅は広がっているようである。

このように利用者が増加しているにも関わらず、この分野に踏み込むことを避けてきた筆者

は文頭で紹介した講演から何を学んだか。第1は、研究者が活用できる生成 AI ツールが数多く存在するということである。関心を持たないということは恐ろしいもので、質問への応答や情報収集に留まらず、文章の要約や記事作成、画像や動画の生成、音声データに基づく議事録作成、企画立案やプログラミング、ソフトウェアの作成を行う生成 AI まで発表されていることを、恥ずかしながら今回初めて知った。金融に無関心であることの課題を指摘し、そのような無関心層向け対策について研究を行ってきた筆者自身が、生成 AI 無関心層だったのである。第2は、生成 AI を活用することの効果である。日々遂行している業務の一部を生成 AI に任せることで、生産性を格段に向上させることができることを学んだ。もちろん生成 AI もときに誤った情報を提供したり、間違ったりすることがある。これまで筆者はこの点を懸念し、生成 AI の活用を避けてきた。しかし、生成 AI から提示された内容を確認する手間をかけたとしても、生産性の向上は期待できそうであった。そして、第3は、講演に感心して終わりにせず、とにかく使ってみるということである。

そこで、生成 AI 初心者の筆者は、この巻頭言を書くにあたり、ChatGPT を使ってみることにした。まず、無料版の ChatGPT に「『信金中金月報』の過去の巻頭言のテーマを教えて」と聞いた。すると、「『信金中金月報』の過去の巻頭言では、地域金融や中小企業支援、社会課題への対応など、多岐にわたるテーマが取り上げられています。以下に、いくつかの例を挙げます。（中略）これらのテーマは、地域金融機関としての使命や社会的責任、持続可能な地域経済の構築に向けた取り組みなど、信金中央金庫の理念や方針を反映した内容となっています。詳細なバックナンバーや特集記事については、信金中金 地域・中小企業研究所の公式ウェブサイト (<https://www.scbri.jp/publication/geppo/>) でご確認ください。」という答えが返ってきた。なお、中略部分には過去の巻頭言の題目がいくつか紹介されていたのだが、その中には過去に筆者が書いた巻頭言の題目も含まれていた。生成 AI は空気を読むこともできるようなのである。気を良くした筆者は、次に「『信金中金月報』の読者が求める巻頭言のテーマは何？」と聞いてみた。すると、「『信金中金月報』の読者が求める巻頭言のテーマは、主に金融業界や経済の動向に関連した内容が多いです。この巻頭言は、信金（信用金庫）業界の視点から、顧客や業界関係者に向けて、重要な経済的・金融的なテーマを伝える役割を果たしています。具体的なテーマとしては以下のようなものが考えられます。（中略）これらのテーマは、信用金庫の読者が直面する現実的な問題や関心事を反映しており、実務的かつ将来志向の内容が望まれます。」と示された。ここでも中略部分にはテーマの例がいくつか挙げられていた。あとは、提案されたテーマの中から筆者自身が関心を持つテーマを選択し、筆者だからこそ書ける文章を書くだけである。最後はやはり筆者自身の研究実績や経験が重要なのだ。